

農福 × 連携

社会福祉法人わたむきの里福祉会（日野町）

○わたむきの里ってどんなところ？

「わたむきの里」は平成12年に設立された福祉事業所で、日野町内外の120名を超える障害のある方が利用され、本人の希望や障害の程度に合わせた就労支援や機能訓練に取り組まれています。

農業を行う「ファームわたむき」、地域の資源回収を行う「エコドーム」の他に、食品の加工、お弁当の製造や配食サービスなど、併せて4つの施設で様々な事業を展開されています。

すべての人が生まれたまちで育ち、働き、暮らし続けることができる地域づくりを目指されています。



さいかい りょうじ
総合施設長 酒井了治さん
※写真右端

○農業を始めたきっかけ

農業に取り組む以前、「わたむきの里」では山で木や竹を切り、炭を生産されていました。その際、山際の棚田が年々耕作放棄地になっていくのを見て、「わたむきの里」で何かできないかと思い、離農される方から農地を預かり、農業を始められたそうです。当初は、元JA職員の方や地域の農家の方がボランティアで技術指導をしてくださり、地域の方々に支えられながら農業を進めてこられました。現在では、棚田60枚程、計約9ヘクタールで米作りをされています。



○「ファームわたむき」について

「ファームわたむき」（就労継続支援B型）は、「たくさん働いて、たくさんお給料が欲しい！ゆくゆくは企業就労がしたい！」と希望される方のための、就労に特化した施設です。主に米作りと日野菜の栽培・加工をされています。

ベテランの利用者の方はすべての作業工程を把握しておられ、自分で作業を進められるそうです。日野菜の収穫作業を取材した際、ベテランの方はてきぱきと洗浄機を準備し、日野菜を手で洗う方、仕上げに洗浄機にかける方と自然に役割分担され、声を掛け合っておられました。



○利用者の方同士の支え合い

初めて農業に取り組む利用者の方は、何をしたらいいかわからず、戸惑われることがあるようですが、ベテランの方が丁寧に教えてくださるようで、利用者同士で自然に支え合いながら仕事をされているそうです。今回の日野菜の洗浄作業でも、ベテランの方が、他の利用者の方に「こういう風に洗ったらいいよ。」と教えていらっしゃいました。

○工夫していること

利用者の中には、耳から聞いた言葉で作業やスケジュールを理解することが苦手な方もいらっしゃいます。そうした方に絵カードで次の作業を伝えたり、朝、一日のスケジュールを説明するとき、ホワイトボードに「次はこの作業。その次はこの作業。」と、作業の写真を貼るなどの工夫をされているそうです。



○地域活性化の取組

年々、離農される方が増え、農地の管理を依頼されるものの、増え続ける耕作放棄地を「わたむきの里」だけで管理するには限界があるそうです。そこで、近隣の農家さんや小学校と連携し、田んぼを作るなどの取組をされているそうです。酒井さんは、「今後は、地域のブランド米を地域の農家さんと一緒に作っていき、地域全体の持続可能な農業経営も考えていけたらいいなと思っています。」とおっしゃっていました。

**県内の農福連携の取組を
動画でご覧いただけます！！**



滋賀の農福

検索

○農業を通して身に着けた自信

令和2年に、日本最大級のお米の食味コンテストしよくみにおいて、「ファームわたむき」のお米が滋賀県初の最高金賞を受賞しました。名だたる産地のお米と自分たちの作ったお米が肩を並べたことで、「自分たちの農業ってすごいな！」と、利用者の方はとても自信を持たれたそうです。現在も、「また金賞を取りたいな！」と、意欲的に米作りに取り組まれています。



○総合施設長 酒井さんの農福連携に対する思い

「障害のある方と農業は、とても相性がいいと思います。障害のある方の中には、集団が苦手な方や、屋内での細かい作業が苦手な方もいらっしゃいます。そういう方にとって大自然の中での農業は、とてものびのびと向き合うことができる仕事です。今後、農福連携が進んで、多くの農家さんと福祉事業所が連携し、地域の農業が活性化されるといいなと思います。」と、酒井さんは思いを語っていただきました。

データ DATA

【組織名】 社会福祉法人わたむきの里福祉会

【所在地】 蒲生郡日野町上野田 805

【連絡先】 TEL：0748-53-1061

【 HP 】 <http://www.wa-sato.jp>

発行：滋賀県農政水産部農業経営課
〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目 1-1
TEL:077-528-3831
E-mail:noufuku@pref.shiga.lg.jp